

平成28年度福岡市歯科口腔保健推進協議会 議事要旨

- 1 開催日時 平成29年2月10日（金） 15：30～16：30
- 2 開催場所 天神クリスタルビル 3階 Aホール
- 3 会議次第

- | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ol style="list-style-type: none">1 開会2 議題<ol style="list-style-type: none">1. 福岡市口腔保健の現状について2. 「食べ方」の支援について3 閉会 |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

- 4 出席委員 17名
欠席委員 3名
- 5 報道機関取材者及び傍聴者
報道機関：無 傍聴者：無
- 6 議事概要

事務局	【開会】
会長	【会長挨拶】
事務局	【委員紹介】
事務局	【議題1 福岡市歯科口腔保健の現状について】資料に沿って説明。
委員	「障がい者入所施設の実習付き研修会」について、実施方式を尋ねたい。
事務局	障がい者入所施設職員を対象に連絡調整会議を開催し、「実習付き研修会」の主旨を説明した上で、希望のあった施設に対して実施している。
委員	本施設は研修会を実施した。職員からも具体的な方法を学べてよかったと感想があった。日頃から本施設も大学に通院して口腔ケアには気をつけているが、特に自分で痛いと言えない利用者には、定期的を受診して口腔ケアや歯の管理に努めている。
会長	歯科専門職以外が口腔ケアを行うと誤嚥の確率が上がるという報告もある。ある程度の知識と慎重な口腔ケアを行うことが必要であり、本事業の実施により、適確な口腔ケアの提供につながればと思う。
委員	「市民の健康づくりに関するアンケート」の「食べるときの状態について」という質問が回答しにくいのではと思う。噛む回数を尋ねているのか。
事務局	噛んで食べるときの状態について、「よく噛んで食べている」「一部噛めない食べ物がある」などの項目に、本人の主観で回答いただいている。
会長	具体的に食物を列挙して、例えば、「たくわん」は食べられる（噛める）等の回答を求めると、より客観的な回答が得られるが、回答する側からは煩雑になり回答しづらい面もある。学校歯科保健の12歳児のDMFTについて、福岡市が若干高い点が気になる。地域差があるのか区ごとの比較を尋ねたい。
事務局	現在公開している数値は、市全体を取りまとめたもののみである。
会長	大学にデータをもらえば詳細な解析ができる。 県のデータで解析しているのは、地域差だけではなく、地域のコンビニや商業地区の数との関係等で、地域的な問題がアイデアになる。フッ化物洗口に反対的な方もいらっしゃるかもしれないが、他の地域より高ければフッ化物洗口を導入する動機づけにもなる。地域の特徴を見ていくのも大事かと思う。
事務局	区ごとのデータについては確認したいと思う。

会長	<p>節目健診の周知率が低いということだが、対象年齢になった時に、どうしたら節目健診を受けられるのかなど具体的なことはご存じか。薬剤師会では周知にご協力いただいているが、他の団体の方はいかがか。</p>
委員	<p>2年前から「お口の健康サポーター養成教室」を受けている。定期健診やかかりつけ歯科医を持つことを聞いて、受診の必要性を再認識した。私が節目健診を受けたのも、教室で聞いたのがきっかけだ。受講を重ねるごとに団体の口腔に対する意識が変わってきた。定期健診を受ける人が多くなり、かかりつけ医の必要性も大半の会員が理解していると思う。</p>
会長	<p>歯科を受診する習慣のない方は、歯科節目健診があるとと言われても悩まれるのではと思う。受診のハードルを下げるような情報があればいい。</p>
委員	<p>当会では歯科節目健診のキャンペーンを昨年9月から実施している。前回の本協議会で節目健診のことを知った。薬局では年齢も把握しているので、何か協力出来ることがあると思う。既存のパンフレットを利用し活動を始めたが、当会としても市・歯科医師会と協力の上、節目健診のパンフレットを作成し、啓発に努めた。</p>
会長	<p>節目健診について、内容を記載したカード等を作成し、あらゆる場所に置いて周知をしたら受診者の増加につながると思う。</p>
委員	<p>一般のドックは病院にステッカーを掲示しているが、歯科医師会も節目健診のステッカーを作り、実施医療機関は掲示がある旨を市政だより等で周知すると良いと思う。</p>
事務局	<p>現在、実施歯科医療機関にステッカーを掲示していただいているのと同時に、ホームページ上でも公開している。</p>
会長	<p>そのような工夫を含め、周知を広めていき、市民にわかりやすい情報提供が出来れば良いと思うのでよろしく願いしたい。</p>
委員	<p>節目歯科健診PRの広報は本会でも協力できると思う。福岡市内の各支部で「まちの保健室」を定期的に開催している。パンフレットを置いておくだけでなく、口頭で説明を加え、伝える事もできる。</p>
事務局	<p>【議題2「食べ方」の支援】資料に沿って説明</p>
会長	<p>歯科保健では「噛ミング30」に代表されるように、健康な生活を目指す観点から噛む事の重要性を周知し「食べ方」を支援することが必要だ。各委員の皆様が参加されている事業の中で、しっかり噛むことに関連した内容があれば紹介いただきたい。また、歯科専門職から、どのような情報提供が必要か、ご意見いただきたい。</p>
委員	<p>当会では毎月の定例会の際、「食べるときに30回噛みましょう」と言って、会員に意識づけを行っている。それに加え、かかりつけの歯医者さんを必ず持つようにと毎回話している。</p>

委員	<p>当会では、学校歯科医会と教育委員会から依頼があり、小学校で歯科保健指導を行っている。低学年では、お口の衛生、歯みがきについて中心に話す、噛むことの大切さについても伝えるようにしている。乳幼児健診の場では、離乳食から始まり、その後も流し食べをしないこと等、噛むことの大切さを伝えているが、現状では理解が得られていない。高齢者に対してお口の体操を紹介する機会は多いが、小学校でも働きかけをする必要性があると思う。様々な年代に伝える機会の必要性を感じているところだ。</p>
会長	<p>成長していく段階から、ライフステージに沿った情報提供が重要だと思う。咀嚼・摂食嚥下の問題は高齢者で問題になっており、高齢期において注目しがちだが、早い段階から市民の関心を持ってもらえるような情報提供が必要だ。</p>
委員	<p>高齢者で、かかりつけ歯科はあるが通院できない方も多。訪問歯科診療の普及に伴い、歯科医と歯科衛生士から、訪問による嚥下評価や食事指導を受けたことで、食べられなかったものが、食べられるよう改善されたケースもある。最近では訪問歯科を希望される方が多く、利用者は喜んでいるようだ。</p>
会長	<p>歯科医師会の訪問診療の現状はどうか尋ねたい。</p>
副会長	<p>会からも希望者に紹介を行っているが、個別に連絡を取りあう場合が多く、会ではデータを全て把握しているわけではない。今後も希望があれば、紹介を行う。</p>
会長	<p>最近では、在宅で生活されるケースが非常に多くなっている。最期まで口からものを食べられるという環境を提供できるのは、生きる楽しみの面でも重要であり、我々の使命でもある。それを皆さんに理解していただき、そのような環境を高齢者の方に提供できるような社会を構築できればと思っている。</p>
委員	<p>幼稚園でも、年に1回以上、定期歯科健診を行っている。保育現場の教諭は、「よく噛むことよりアレルギーや食が細い」ということに気が向きがちだ。今後、職員や保護者を対象に「よく噛む事の研修会」や、「噛ミング30」など歯科医療関係者からの話を聞く機会等があればと思う。</p>
会長	<p>たくさんの意見をいただき、有難うございました。食べることは、生きる根源だと思う。歯科は症状のある時に治療に行くイメージが強いが、人生を全うするためのサポートを務めていきたい。周知のため、今後皆さんで情報を共有し、発信していきたいと思う。</p>
事務局	<p>【事務局挨拶】</p>
事務局	<p>【閉会】</p>